

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400152		
法人名	株式会社 サポート		
事業所名	グループホーム ピアありた (もみじ)		
所在地	〒814-0033 福岡県福岡市早良区有田7丁目1-20		
自己評価作成日	平成25年9月26日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

もみじは、平成24年の11月に初めて利用者様が入居されました。常に利用者様の気持ちに寄り添えるよう、ケア会議を開いて意見交換したり業務が円滑にできるようアイデアを出し合ったり、とても密度の高い1年を送りました。満床になった今は、利用者主体の行事やその人らしい生活リズムが整うような支援を利用者や家族の意見や要望を取り入れながら行えるように全職員が邁進しています。また家族の面会も多く、行事の参加にも好意的であることから、みんなが笑顔でなじみの人たちと会話できるよう、より多くのなじみの関係を再構築する事に取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に基本理念・基本方針・心得を説明指導行っている。事務所の壁に掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園から定期的な慰問や校区の夏祭りを楽しみにしている。近くの商店に買物に行ったり、御祝い事や季節の行事のおやつには、近所の和菓子屋さんを利用している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族、民生委員、地域包括センターの方などに、施設で実践している介護、注意していただきたいことなどを伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っており、ご家族の参加の他、地域では校区の自治協議会や民生委員、包括センターの方など参加があり、地域の情報を聞いたり、行事の報告を行い、ご意見や要望を話し合えるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や判断が難しい場合は事前に相談するようにしており、その際実態について説明を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げている。機会があれば外部研修を受けたいと思っている。今期は、内部研修にて勉強していく予定である。気になる事は定例会にて意見を出し合いスタッフ間の意識を高めている。なお臥床時にはセンサーを使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて行う予定である。		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、パンフレットだけではなく、補足資料等も使い説明を行っており、理解と納得して頂けるよう努めている。変更時にはその都度文書にて説明し理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・苦情内容箱を設置している。苦情等あった場合には情報を共有しすぐに対策を取るよう努めている。また家族会を開催する時に、アンケートをとって意見を反映できるように努めている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案がある場合は月に1回ある定例会などで話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アセスメント・自己評価シートを作成し、自己評価、上司評価、評価に基づく新しい目標設定を行うこととしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時における年齢・性別による排除は行っておらず、職員の働く意欲・能力に応じた処遇を行っている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修にて行う予定である		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など全員参加できるようにスケジュールを組むようにしている。外部研修がない時は内部研修を行い、自分で勉強して、それを発表する場を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在既存のネットワークには加入していないが、今後加入を検討する。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人と家族から話を聞き、表情、動作の観察に勤めながらその情報を職員間で共有し、ケア会議を開いて安心を確保する為どういう関係づくりの支援が必要か取り組んでいる		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に困っている事不安なことの解決方法を一緒に考えることで関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何を困っているか家庭の環境も含めてお話をお伺いしている。そのうえで支援の内容を話し合い、他サービスの説明を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意なこと、好きなことを続けて出来るよう支援し一人ひとりに役割があり充実した日々を過ごして頂けるような支援を心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時、職員全員が挨拶や本人の様子を伝えるだけではなく、雑談などコミュニケーションを普段から取ることで家族の心身の状態にも配慮が出来るよう努めている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会や電話をしやすいように接遇や環境に配慮している。		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性も考え、席なども決めているが、全体のレクレーションを開催するなど、1人ひとりが個性を発揮出来る様な支援を行っている。また、他フロアとの交流も行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状等送って関係を断ち切らない様にして、何かあればいつでも支援できるような関係性を存続させたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたいですか、と尋ねても困ったような表情を浮かべたり、わからないと言われる事も多いので普段の生活から意識して意向をくみ取るようにしている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族に尋ねているが、それ以降もお話している時に知らない話が出てくるとその都度尋ねて、情報を更新している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過干渉しないことに気を付け、まずは見守り、難しいと思えるところを支援していくことによりその人の有する力を奪わないよう職員で、情報を共有して把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月各担当職員が行っている。まずは、本人と家族の意向をまとめ、ケア会議にて、居宅療養管理指導を参照しながらスタッフの意見やアイデアを出してもらっている。それを本人と家族同席の場で話し合いながら介護計画を制作している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は、常に介護計画が確認出来る様にできており、モニタリングで現状に即したものがどうかチェックしている。気づきがあればその都度職員間で情報を共有している		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事は、柔軟に対応したいと考えている。しかし他利用者様に対しても公平なものでなければならぬと考えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園の慰問や芸能ボランティアの催しに感謝しながら、楽しむことが出来ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医をどうするか十分話し合っている。その後は、月2回の往診の度に記録を行い職員間で情報を共有している。家族にも特変があった場合はすぐ連絡行い、その時の処置も説明行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの中には看護職はいないが、同施設の看護職に相談行いう事がある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、定期的にご家族や病院関係者との情報交換や相談に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方に関しては入居前の説明にて行っており、事業所で出来る事を出来ないこと口頭と文書によりお伝えしている		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要な情報がすぐ持ち出せるような書類を用意している。職員全員が対応行える様マニュアルを整備している。また、家族にも希望搬送病院などもあらかじめ指定してもらっている。		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導と協力を得ている。年2回の消防計画を立てていてまんべんなく職員が参加できるよう実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を生かし、尊厳が保てるような言葉かけと動作を心掛けている。職員同士でも気づきがあれば、意見を言い合えるようにしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話している時には傾聴し思いや希望を自己決定出来る様に心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時間に行っているサービス(体操やレクリエーション)などがあるが、本人の日課を第一に考えて、希望にそって支援を行っている。それと同時に生活リズムも整えるよう支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理美容があり必要に応じて利用している。毎朝の整容の習慣を失わないよう支援し、髭剃りやお化粧の習慣がある方にも個別に支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、後片付けなど何らかの役割を持つように支援している。買物と一緒にいったときには好みの菓子などを選んでもらったり、外食や出前などでも食べる楽しみをもてるよう支援している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーやたんぱく質、糖質、炭水化物、食塩が計算された食材がレシピと共に配達されている。それを利用者の病気に対応した量と形態にあわせて提供している。水分は摂取量を記録し必要量が確保できるように支援している。		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員行っている。定期的に訪問歯科を利用している利用者は歯科医又は衛生士が指導した事にも対応している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し一人ひとりの排泄パターンの情報を職員間で共有し、昼間の布パンツ使用や、おむつ使用量を減らして行く支援に努めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用して便秘している人の把握に努めている。水分量の確保や運動、腹部マッサージ、腹部を温めるなどの支援を行っているが、便秘薬も使用しながら、便秘による体調不良を予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にて気持ちよく安心して入浴できるような環境に注意している。入浴表をみて、その日の利用者の体調や意向を尋ね職員同士で話し合いながら、その日の入浴する人を決めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重しながら日中の体操、レクリエーションに参加を促している。メリハリをつけるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は、介護記録がある書類と一緒に保管しており、職員はいつでも確認できる様な環境になっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動が日課となり意欲的にして下さる。歌が好きな利用者が多いので聞いたり歌ったりできる環境を整えている。気分転換できるように散歩や買物、他フロアにて交流をもったりしている。		

自己・外部評価表H25(GHピアありた)もみじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行くことが家族の意向では一番多く、意向に添うよう努めている。また、家族の協力も得られている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前に家族と話し合い、同意を得れば、預り金を帳簿につけ管理している。利用者と買物に行き好きな物を買ったりしている。家族には毎月帳簿の写しを領収書と共に渡している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前に家族に自由に出来る事を説明しており、家族に近況をこちらから電話する時には利用者と代わり話をしてもらうようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーを季節の絵に合わせて利用者と一緒につけていたり、飾り付けも落ち着いた感じの物にしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性がいい利用者同士で会話が楽しめるよう仲介したり、勘違いやトラブルが起こらない様席の配列に工夫をしたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらうよう家族に説明している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持ち物には名前をかいてあり、居室には表札、トイレにも大きくトイレと書いている。バリアフリーで手摺がありつたえ歩きが出来るようになっている。		